



『民俗学誌 (Folklore Studies)』について

王 京 (COE研究員・RA)

北平私立輔仁大学 (Catholic University of Peking, 1925 ~ 1952) 附属の東方人類学博物館 (Museum of Oriental Ethnology) は日本占領下の1940年代に創立され、欧文雑誌『民俗学誌』を発行していた。中国での民俗研究や日本民俗学との関係を考える上で重要な事実であるが、その詳細は不明のままだった。そこで北京師範大学が所蔵する「北平私立輔仁大学檔案」とその他の関連資料により、同誌の初歩的な整理と紹介を試みたい。

輔仁大学は1930年代に北京の五大名門校に数えられ、戦時下においても独逸系教会が運営したという理由で閉鎖されることなく経営を続け、北京における高等教育の空白を埋めながら大きく発展していたが、新中国成立後、北京師範大学や他の大学に編入され、姿を消した。

同大学には1940年に東方人類学博物館がつくられた。1941年度の『私立輔仁大学一覽』では「東方人類学博物館」の項目が見え、「葉徳礼主任、趙衛邦事務員、陳宗祥助理員」という組織であったことが分かる。そして大学の卒業アルバムである『輔仁年刊』(1942年版)にも「輔仁博物館」という項目があり、博物館の建物、事務室風景など計4枚の写真が掲載されている。

博物館の責任者は神言会神父葉徳礼 (エーデル、Matthias Eder, 1902 ~ 1980) で、彼は輔仁大学に赴任する前、パリやベルリンなどで4年間日本学を研究していた。趙衛邦 (輔仁大学大学院史学科卒、1942年から研究員) と許道齡 (北京大学史学部卒、1942年から陳宗祥に代わって助理員) が中心メンバーであった。

博物館の重要な活動の一つは、年刊『民俗学誌』の発行である。雑誌の登録申請は1942年10月で、当時の職員には、李慰祖助理員 (輔仁大学大学院在学) の名前も見える。保証人は校務長首席秘書兼日本語文学部主任の細井次郎であった。雑誌は英語、独語、仏語などが混在し、一部英文及び中国語の要約を付けている。

創刊号はエーデルによる序言を巻頭に、本文109頁で、主な内容は以下のようである。

- ・ S.M. Shirokogoroff 「中国の民族学研究」
- ・ 趙衛邦 「扶風の起源と発達」 「中国現代民俗学研究 上」
- ・ Josef Thiel 「祈願成就のかたしる焼き」
- ・ Ch'en Hsiang-Chun 「驅邪符に関する幾つかの事例」
- ・ Karl Reitz 「へいはく・みてぐら・ごへい(幣帛)」
- ・ エーデルの二つの書評

雑誌の創刊は早速、輔仁大学日本語文学部の講師を務めていた直江広治より柳田国男に知らされ (1942年11月11日付書簡) まもなく『民間伝承』8-9 (1943年1月) で「『民俗学誌』創刊」(関敬吾) として日本の学界にも紹介された。

同誌の創刊は遅れて台湾の『民俗台湾』30号 (1943年12月) でも報じられた。同号に「大東亜民俗学の建設と『民俗台湾』の使命」として、1943年10月17日に東京の柳田宅で行われた座談会の記録も載せられている。この座談会は民間伝承の会として、日本民俗学の東アジア規模の展開を意識した「柳田国男先生古稀記念事業」の一環であった。『民俗台湾』の誌上に北京の『民俗学誌』が紹介されたことも、同事業との関連が考えられる。

1943年10月、直江はエーデルの賛同の下で柳田記念のために『民俗学誌』で日本民俗学特集を編集することを、『民間伝承』の編集長・橋浦泰雄に報告し、柳田の写真、年譜及び著作年表の送付を依頼した。この特集 (Vol. -2, 1944年) は柳田の写真と柳田への献辞を巻頭に飾り、全155頁の中で独逸語に訳された「柳田国男：日本民俗学 起源・発展と現状」が76頁を占め、その他日本に関する論文が2本収録されている。

『炭焼日記』の1945年3月3日条では、柳田は「北京よりの『民俗学誌』とどく。大藤君の書いた日本民俗学史の全訳の、エーデル氏訳」と記している。

終戦後の1946年10月に、国民政府の内政部に『民俗学誌』の登録が改めて申請された。メンバーはエーデル、趙、許と書記の汪鏡民で、資本金160万円であった。この申請は1947年4月12日に許可された。

国共内戦後、エーデルは日本に移住し、雑誌の出版を継続していた。1952年以降、中国語の誌名がなくなり、出版元も S.V.D Research Institute (東京1953 ~ 56)、神言会 (東京1957 ~ 62) と変わり、1963年以降さらに『Asian Folklore Studies』(東京: Society for Asian Folklore 1963 ~ 72 名古屋: Asian Folklore Institute 1973 ~) と改名した。

エーデルは1980年4月27日に日本で亡くなり、その蔵書は、戦後、彼が所員を務めていた南山大学人類学研究所に寄贈された。なお、『Asian Folklore Studies』は同研究所に受け継がれ、いまでも年2号出版されている。